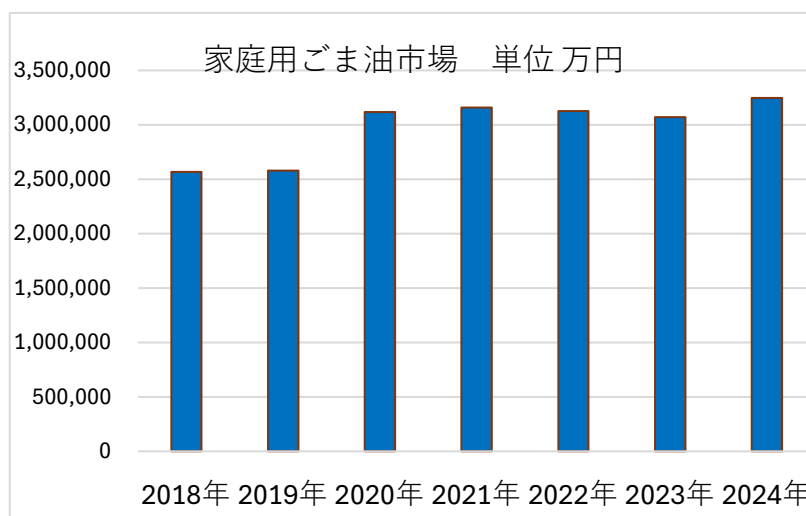


## 豊かな食生活を守るために ～ごま調達を通じたSDGs活動～

### 1. はじめに

日本におけるごま関連の需要はコロナ禍以降も順調に推移し、今後も食の多様化や健康志向を背景に更なる拡大が見込まれています。

家庭用用途においては2020年にコロナ禍による内食需要の増加に伴い大きく伸長、以降、円安を起因とする原料高の影響から一時停滞感はありましたが、昨年末時点ではおよそ325億円の市場規模に成長しています。



当社もこうした需要に対応するべく焙煎ラインを増設し、2023年5月より本格稼働するなど生産体制の拡充を図っています。

一方、ごま油の原料となるごまはアフリカ、アジアなどからの輸入に依存していますが、ごまの産地は地政学的なリスクを抱える地域が多いことやロシア・ウクライナ情勢に起因する農産物需要の変化、農薬問題など課題は山積しており、私たちごま油メーカーにとって安全安心で高品質なごまの安定調達は事業継続のための重要課題の一つです。

今回は当社が取り組むごまの安定調達に資するSDGs活動の一端をご紹介します。

### 2. ごま原料産地の様子

皆さんは「マラウイ」という国をご存じでしょうか。

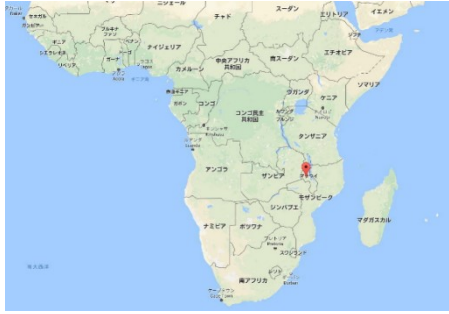
アフリカ南東部の内陸に位置し、南北に細長い国土の総面積は11.8万平方キロメートル(日本のおよそ1/3)、マラウイ湖が国土の大部分を占める人口約2,000万人程の共和国です。

労働人口の8割以上が農業関係に従事しており、主にたばこ、紅茶などが商品作物として生産され輸出されています。

日本の対マラウイ貿易としては輸出が48.1億円、輸入が11.6億円となっており、(2022年:財務省貿易統計)主要品目として輸出は自動車や鉄鋼製品、輸入はごま、果実、タバコ、紅茶等です。

マラウイはごまの主要産地であるタンザニア、モザンビークに隣接し、近年ごまの生産量を増やしており新たなごまの産地として期待が持たれています。

ただ、農業生産性が低く国民の大半が1日2ドル程度で生活する世界最貧国の一つとされています。



マラウイ共和国



川底を掘り湧き水を汲む少女

また、ごまが生産されている地域には灌漑設備が無く、数キロ離れた水場までの片道数時間の水汲みが子ども達の日課になるなど、貧困や児童労働が社会問題となっています。

### 3. ごま調達を通じた SDGs 活動

こうした環境を改善するため、当社は数年前から商社や現地NGO団体と連携し、ごま購入費用の一部をさまざまな支援に活用する取り組みを始めています。

これまでの活動として、飲み水や生活用水確保のため9基の井戸の設置や病院で使用する救急車輛、医療器具の提供など生活基盤向上を目的とした支援、また、収穫したごまの品質劣化を防ぐための保管倉庫2棟の提供や、農薬の正しい使い方の指導など定期的な農業技術指導を行ってきました。

こうした活動の甲斐あり、少しずつではありますが人々の暮らしも改善され、農家の方の収入が増えたことでごまの生産意欲も高まっています。

また、昨年はこのような持続可能なごま調達を通じた SDGs の目標達成が評価され、第25回グリーン購入大賞において農林水産部門大賞をいただくことができました。

私たち自身のごまの価値を再認識し、先人たちが守ってきた伝統の圧搾製法を継承し、一人でも多くの方にマルホン胡麻油のファンになって頂く。

それがごま農家の支援にもつながり、ごまという貴重な農産資源を後世に残すことにつながるのだと思います。



井戸で水汲みをする少女



収穫したごまを保管する倉庫

### 4. 最後に

竹本油脂は今年創業300年の節目を迎えます。

次の100年のため、私たちは今後も伝統と歴史に裏打されたサステナブルなものづくりを積極的に推進し、すべてのステークホルダーの皆さまとともに、ごまという素晴らしい資源、美味しいごま油を後世に残すべく社員一同邁進いたします。

